

学力向上推進地域事業 福山市立駅家中学校区 研究のまとめ

Ekiya nishi elementary school

Ekiya kita elementary school

Ekiya junior high school

課題

- ①児童生徒が主体的に学ぶ授業づくり
 児童生徒の興味関心を引き出すにはどうしたらよいか。
- ②校区間・教員間の連携
 合同研修会・校内研修だけでなく、連携を密にするためにはどうしたらよいか。
- ③家庭教育支援アドバイザーとの連携
 情報交流の機会をどのように持つとよいか。
- ④研究体制の構築
 教職員が目指す児童生徒像・授業像を共有するにはどうすればよいか。

研究テーマ

「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」～子どもが「考えることが楽しい」と感じる学びあいや対話を重視した授業づくり～

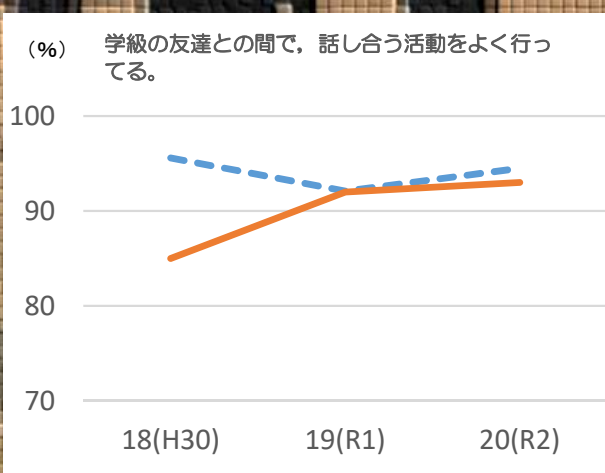
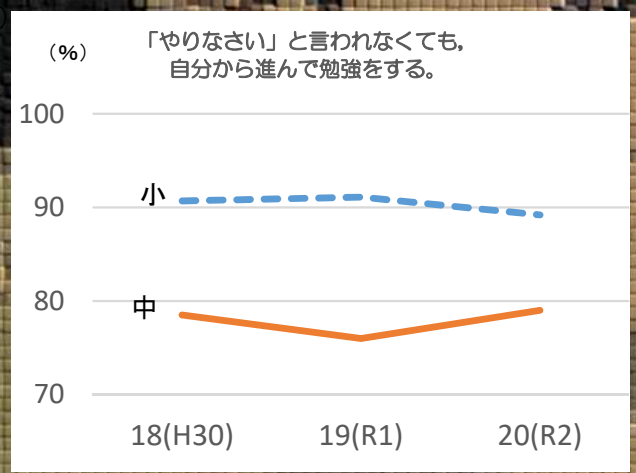
取組

- ①児童生徒が主体的に学ぶ授業づくり
 - ・児童生徒が思考を深めるため、思考ツールを活用した。また、思考したことをもとに、周囲と意見を交流し、学びあいや対話へと発展した。
 - ・グラフや資料から読み取ったことをもとに思考を深め、仲間と意見を交流する場を設けた。
 - ・ICTの効果的な活用方法に関する研修を行い、視覚教材の充実を図った。
- ②校区間・教員間の連携
 - ・小中一貫だより等の通信を発行した。また、通信や個別の指導計画等の具体物をもとに情報の共有を図った。
 - ・授業づくりについて交流を行い、自分の授業に活かせることを積極的に取り入れた。
- ③家庭教育支援アドバイザーとの連携
 - ・教職員は、記録ファイルの閲覧を通して、家庭教育支援アドバイザーが児童生徒へどのように働きかけているのか等を具体的に把握した。また、中学校では家庭教育支援アドバイザーが校内委員会へ参加し、児童生徒の様子を交流した。
- ④研究体制の構築
 - ・個別の指導計画の作成・活用を行い、目指す授業像をもとにした研究授業を行った。
 - ・個別の指導計画の作成に関し、特別支援の視点から「短期目標」「長期目標」を設定し、全員で取り組んだ。

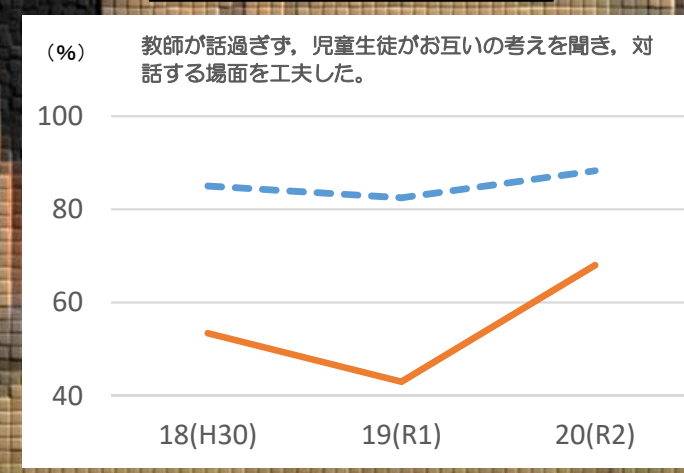
○成果●課題

- 仲間と考えを交流することを通して、自分の考えを再考する機会が増えた。
- 視覚教材の活用・題材の工夫などで、児童生徒の興味関心を高めることができた。
- グラフや資料から読み取り、自分の意見を述べるために、比較・分類ができるようになった。
- 授業づくりについて小中で交流し、子ども主体の学びづくりに生かすことができた。
- 小中9学年で共通した取組をより明確に設定できればよかった。
- 家庭教育支援アドバイザーが校内委員会に参加することで、支援を必要としている児童生徒の状況を多面的に把握することができた。
- 支援対象の児童生徒への取組が、そのほかの支援を必要とする児童生徒への支援にもつながった。
- 個別の指導計画を日常的に活用できるように工夫が必要である。

児童生徒アンケートより



教職員アンケートより



まとめ「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」～子どもが「考えることが楽しい」と感じる学びあいや対話を重視した授業づくり～をテーマに授業づくりや児童生徒への支援を行ってきた。思考すること・対話をすることに楽しさを感じ、自分の考えを深められる児童生徒が増えることへとつなげることができた。

